

～「獣害対策（ニホンジカ）に係る現地検討会」～

盛岡市大ヶ生^{おおがゆ}の虫壁山^{むしかべやま}国有林では、ニホンジカによるスギ食害が著しいことから、平成29年度に植栽木の保護効果が高い防鹿柵（金網柵とPEネット柵）を設置しました。

5月17日、ニホンジカによる被害とその防除方法について、岩手県や管内市町村担当者と意見交換を行うため、総勢25名で現地検討会を開催しました。

今回は、その様子をお知らせします。

はじめに、盛岡森林管理署長より「環境省が公表した平成24年度のニホンジカの推定個体数は約4万頭とされ、五葉山周辺からは岩手県全域に生息している。農林業被害が拡大し、食害対策が必要となり経営を圧迫している状況である。本検討会では、防鹿柵のメンテナンスや費用対効果、さらには個体数管理等、様々な議論と民有林行政への役立てをお願いしたい。」旨、挨拶しました。

次に、業務総括より、ニホンジカの生態（繁殖率の高さ・食性）や、その被害を中心に説明し、続いて紫波森林官より、PEネット柵および金網柵について設置コストや作業時に苦労した点等を比較しながら現地にて説明しました。

その際、「金網柵の支柱は60～70cm打設するが、設置箇所は岩盤も多く相当苦労した」「PEネット柵では沢を越える箇所があり、網を二重に張って流水被害に対応した」「共通した点では柵の強度が必要な箇所は控え柱を多めに設置した」等の説明がありました。

参加者された大半の方々が、初めて防鹿柵を見る機会となったことから、食害を受けたスギ植栽木や防鹿柵に直接触れながら「防除効果」「支柱の深さや打設方法」「資材重量や利用年数」等の質問が活発に出されました。

育成担当より、「ニホンジカは防鹿柵に対し、①もぐり込み、②突進、③飛び越えの順に攻撃する。そこを最小限に食い止め、いかに造林地を守るかが課題である。ゆえに、現地の状況に応じた防鹿柵の選択が重要であり、また設置して終わりなのではなく、以降のメンテナンスが必要不可欠である」旨、説明がありました。

次に、センサーカメラを設置した箇所では、経緯としてニホンジカの個体数の把握や、季節ごとの行動状況の把握のためであること、また、センサー感度等を微調整してより効率の良い撮影方法を模索してきたこと等説明がありました。



↑ シカ食害状況の説明



↑ さいネットとの比較説明

参加者より、「センサーカメラがクマに破壊された。クマは撮影時の光に反応しており設置場所は様々な想定が必要」との意見もありました。

当署で設置したセンサーカメラでも、融雪後から撮影される個体種が多くなり、ツキノワグマも撮影されたことから貴重な意見として受け止めました。

全体的な感想では、参加者より、「農作物を守るために電気柵に補助金を使っているが申請が多数あった。クマに金網柵が一撃で倒される心配があるが検討したい」「場所や加害獣によって柵の種類を変える必要がある」「今後の経過を踏まえて柵の導入を検討したい」等の感想がありました。

最後に盛岡森林管理署長より、「今後、それぞれの機関で獣害対策の参考にさせていただきたい。被害対策を情報共有し、効果的な対策に結びつけたい」旨挨拶があり、現地検討会を終了しました。

今回の現地検討会は、県や関係市町村の獣害対策の最前線に対応されている担当者との貴重な意見交換の場となりました。今後の獣害対策や担当者間の連絡・連携に結びつけるよう取組を深めていきます。



↑ センサーカメラの説明



↑ 金網柵の説明と意見交換の様子